

## 第4章 若者の相談ネットワークの状況：推移と変化

### 第1節 はじめに

本章では、若者のソーシャル・ネットワーク（相談ネットワーク）に注目し、その実態について就業状況との関連を中心に検討する。特に、同じ質問項目で2006年に実施された調査の結果と比較しながら、5年の間でみられた変化とその背景について考察する。

ソーシャル・ネットワークに注目するのは、2006年の調査と共通の問題意識に基づいている。すなわち、学校から職業への移行過程や非典型雇用から典型雇用への移行過程など、仕事をめぐる若者の移行過程に関して、その実態を「包括的」に探ること、すなわち領域横断的かつ対象を全域的にカバーして問題を把握することが必要だという認識である。そのような意味で包括的な把握をめざすとき、若者のソーシャル・ネットワークに注目することは、就業という側面にとどまらずに、若者が生きる“世界”のあり方をより全域的かつ具体的な形で切り出すことにつながりうると考えられる。なお、若者が取り結んでいる社会関係は多様なものであるが、ここでは特に自らの悩みを相談する相手を取り上げる。つまり、ここでソーシャル・ネットワークという表現で想定しているのは、若者の多様なパーソナル・ネットワークのうちの相談ネットワークである。

本章で具体的に試みるのは、若者の相談ネットワークについての調査結果を概観しつつ、特に就業状況と相談ネットワークのあり方の関連について検討することである。具体的には、若者の就業状況（典型雇用であること／非典型雇用であること）が、彼ら／彼女らが有している相談ネットワークのあり方をどう規定している／いないのかについて探る。そのことから、若者の移行に関する具体的な支援の方策を考えることにつながる知見を得ることをめざす。

ここで直接分析の対象とするのは、2011年2～3月に労働政策研究・研修機構が実施した、東京都（島嶼部を除く）の20～29歳の男女2058人（専業主婦（夫）を除く）を対象とする、「第3回 若者のワークスタイル調査」のデータである<sup>1</sup>。なお、この調査において相談ネットワークの分析に際して用いた質問項目は、2006年2月に同機構によって実施された「第2回 若者のワークスタイル調査」（以下、2006年調査）と同じ設計のものである。二つの調査の結果は比較可能であるので、以下の考察においても適宜比較を加えながら進めていくことにしたい<sup>2</sup>。また、同一の質問項目を用いて分析し、分析に際しての問題意識も多くの部分で共通していることもあって、以下では必要に応じて、2006年調査の報告論文（久木元 2006, 2007）で記載した説明や文章・表現などを再度用いることがあるので、付記しておく。

---

<sup>1</sup> 詳細は序章を参照のこと。

<sup>2</sup> なお、「第2回 若者のワークスタイル調査」の対象者は、東京都（島嶼部を除く）の18～29歳の男女2000人（正規課程の学生、専業主婦を除く）であった。2011年の第3回調査と比べて、18～19歳の男女も対象者となっている点が異なっている。

## 第2節 質問項目の設計

議論に進む前に、相談ネットワークの情報を得るために用いた質問項目についてふれておく。上述したとおり、このような質問項目の設計は、2006年に実施された「第2回 若者のワークスタイル調査」と同一である。

質問文は、「あなたは現在、a～dのことについて悩みを持っていますか。もし悩みを持っている場合には相談する相手について、あてはまる番号すべてに○をつけて下さい」というものであり、「a 今の自分の仕事や働き方について」「b これからの生き方や働き方について」「c 人間関係について」「d 経済的な問題（お金のこと）について」のそれぞれについて、相談する相手を複数回答で選んでもらうという形である。選択肢は、「悩みはない」「親・保護者」「兄弟姉妹」「職場やバイト先の上司」「職場やバイト先の友人・同僚」「学校で知り合った友人」「学校の先生・職員・相談員」「趣味をともにする友人」「恋人・配偶者」「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」「その他」「誰もいない」である。

この質問項目によって、悩みがある場合の相談相手の選択状況がわかり、かつ複数回答にしているため、相談相手の具体的な広がりや多様性についてもとらえることができる。しかし、あくまでも個々の悩みに対して具体的に相談相手をたずねる形をとっているため、そもそも悩みがない回答者の相談ネットワークはとらえることができないという限界がある<sup>3</sup>。また、調査票の紙幅の関係もあり、相談ネットワークの規模（人数）や連絡頻度、複数の相談相手間の密度など、ネットワークそのものの特性について踏み込んでたずねることはできていない。そのこともあって、本章は記述統計的な分析が中心となっていることも、あらかじめ述べておく。

ところで、2006年調査のデータに関して、この質問項目の回答を分析した結果、浮かび上がってきたのは次のような点であった（久木元 2006, 2007）。すなわち、(1) 若者にとって職場とは、単なる仕事の環境というだけでなく、さまざまな悩みについての相談ネットワークが供給される場としても機能していること、(2) 非典型雇用ないし無業であることは、相談ネットワークの重要な供給源である職場関係の人が自らのネットワークに加わりにくいこと——いわば、世界が広がりにくいということ——を意味すること、(3) 非典型雇用や無業であることによって、多方向的でない形の小規模で限定的な相談ネットワークが帰結されやすいこと、の3点である。そこで、以下で進める2011年調査のデータの分析に際しても、この諸点が見出せるのか、見出せないとするばどのような状況になっているのかという点を明らかにすることをめざして、考察を進めていくことにしたい<sup>4</sup>。

<sup>3</sup> ただし後述するように、4つの悩みのいずれについても6割以上の人が「悩みがある」と回答しており、少数の人の相談ネットワークのデータしか得られていないわけではない。

<sup>4</sup> なお、若者のパーソナル・ネットワークや相談ネットワークについての関連諸研究については、2006年調査の報告書で概観している（堀ほか 2006）。その後、2006年調査の質問項目やアプローチを参照したものとして、大阪市の若年者への調査結果を分析した菅野（2007）や内田・菅野（2010）、北海道と長野県の若者への調査結果に基づく浅川（2009）・堀（2009）がある。菅野は、2006年調査で見出された就業形態と職場関係の相談チャンネルの関係について、大阪市のデータでも近い結果を得ている。他方、浅川や堀の分析では、就業形態

### 第3節 相談ネットワークの状況

では、2011年調査の結果から、相談ネットワークの状況を具体的にみていくことにしよう。

まず相談ネットワークの前提となる悩みの有無についてである（図表4-1）。a～dの4つの悩み（以下、順に「今の仕事」「これからの生き方」「人間関係」「経済的問題」とする）について「悩みがある」と回答した人の割合は、それぞれ男性で64.3%、68.2%、53.9%、60.0%であり、女性で74.5%、79.1%、71.7%、71.3%であった。4つの悩みのいずれについても、全体では6割以上の方が「悩みがある」と回答しており、また男性より女性の方が悩みのある人が有意に多くなっている。この傾向は2006年の調査結果でもみられたが、4つの悩みのすべてで、全体・男性のみ・女性のみについてもその割合は増加している（ちなみに、特に顕著な増加がみられたのは「今の仕事」で、2006年の結果は、全体・男性のみ・女性のみがそれぞれ61.3%、57.2%、65.7%であった）。

図表4-1 「悩みがある」と回答した人の割合（%）

	全体	男性	女性	n(人: 男性)	n(人: 女性)	
今の自分の仕事や働き方について	69.4	64.3	74.5	1013	1013	p<.001
これからの生き方や働き方について	73.6	68.2	79.1	1013	1013	p<.001
人間関係について	62.8	53.9	71.7	1011	1012	p<.001
経済的な問題(お金のこと)について	65.6	60.0	71.3	1014	1007	p<.001

男女それぞれについて配偶状態別にみると<sup>5</sup>（図表4-2）、男性の場合は4つの悩みのいずれについても配偶状態による有意な差はみられなかった。女性の場合は、「経済的問題」以外の3つで、無配偶の方が悩みのある人が有意に多かった。次に、男女それぞれについて現職の就業状況（従業上の地位）による差を調べた（図表4-3）。男性では、4つのうち3つの悩みについて、非典型雇用および「無業、その他」で悩みがある人の割合が高くなっていったが、女性の場合は、そうした傾向は特にみられなかった。

最後に、学歴別にみた場合、男性では4つ中の3つの悩みで学歴間に有意差がみられなかった。一方、女性では「今の仕事」「これからの生き方」「経済的問題」で有意差が検出され、いずれも学歴が高いほど、また卒業者より中退者ほど、悩みのある人の割合が高くなっている（図表4-4）。

と相談チャンネル数の間に2006年調査と同様の結果は得られていない。堀はその理由として、長野では東京ほど就業形態の多様化がまだ進んでおらず、非典型雇用の割合が低かったことを挙げている（堀2009:228）。

<sup>5</sup> この調査では、未婚の人と離別・死別して現在独身の人の区別ができないため、ここでは既婚/未婚ではなく有配偶/無配偶という表現を用いる。

図表 4-2 「悩みがある」と回答した人の割合：配偶状態別（％）

		全体	無配偶	有配偶	n(人:無配 偶)	n(人:有配 偶)	
今の自分の仕事や働き方について	男性	64.3	64.1	64.2	827	151	n.s.
	女性	74.5	76.2	60.8	866	120	p<.001
これからの生き方や働き方について	男性	68.2	67.7	70.2	827	151	n.s.
	女性	79.1	80.4	70.0	863	120	p<.01
人間関係について	男性	53.9	54.1	53.6	824	151	n.s.
	女性	71.7	73.7	58.0	863	119	p<.001
経済的な問題(お金のこと)について	男性	60.0	58.8	64.2	827	151	n.s.
	女性	71.3	71.0	72.3	859	119	n.s.

図表 4-3 「悩みがある」と回答した人の割合：現在の就業状況別（％）

		正社員(公 務員含む)	非典型雇 用	自営・家業	無業、その 他	n(人: 正社員)	n(人:パー ト・契約)	n(人: 自営)	n(人:失 業・無業)	
今の自分の仕事や働き方について	男性	61.5	68.9	62.5	80.3	683	222	48	61	p<.05
	女性	76.5	71.1	74.1	77.8	554	381	27	54	n.s.
これからの生き方や働き方について	男性	65.6	72.8	68.8	80.3	680	224	48	61	p<.05
	女性	79.3	77.8	75.0	87.0	552	379	28	54	n.s.
人間関係について	男性	52.6	53.1	61.2	66.1	679	224	49	59	n.s.
	女性	74.8	66.1	73.1	79.6	552	380	26	54	p<.05
経済的な問題(お金のこと)について	男性	55.3	70.1	58.3	76.7	682	224	48	60	p<.001
	女性	67.1	76.3	81.5	72.2	547	379	27	54	p<.05

図表 4-4 「悩みがある」と回答した人の割合：学歴別（％）

		高卒	専門卒	短大・高専 卒	大学・大学 院卒	中卒・高校 中退	高等教育 中退	
今の自分の仕事や働き方について	男性	59.4	68.5	55.2	63.5	63.0	76.4	n.s.
	女性	61.3	74.9	77.0	79.4	67.6	80.4	p<.001
これからの生き方や働き方について	男性	61.8	70.3	69.0	67.9	73.6	79.5	n.s.
	女性	70.2	77.1	82.3	83.1	75.8	84.8	p<.01
人間関係について	男性	48.6	55.9	51.7	53.6	64.2	61.6	n.s.
	女性	67.3	70.6	73.5	73.5	67.6	76.1	n.s.
経済的な問題(お金のこと)について	男性	60.2	59.1	65.5	55.3	72.2	75.3	p<.05
	女性	71.4	73.2	77.7	66.9	82.4	80.4	p<.05

  

		n(人: 高卒)	n(人: 専門卒)	n(人:短 大・高専 卒)	n(人:大 学・大学院 卒)	n(人:中 卒・高校中 退)	n(人:高等 教育中退)
今の自分の仕事や働き方について	男性	212	203	29	427	54	72
	女性	160	239	113	413	34	46
これからの生き方や働き方について	男性	212	202	29	427	53	73
	女性	161	236	113	413	33	46
人間関係について	男性	212	202	29	425	53	73
	女性	159	238	113	411	34	46
経済的な問題(お金のこと)について	男性	211	203	29	427	54	73
	女性	161	235	112	408	34	46

次に、悩みのある人の相談ネットワークについて、具体的な検討を行う。

まず、4つの悩みそれぞれについて、誰を相談相手として選んでいるかを概観する（図表4-5）。全体として、相談相手として選ばれているのは家族関係・職場関係・友人・配偶者などにほぼ集約されており、それ以外の立場（「学校の先生・職員・相談員」や「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」）の比重は小さい。このこと自体は2006年調査と共通だが、割合の数値でみると、例えば、「今の仕事」「これからの生き方」「人間関係」について、「親・保護者」を選ぶ割合が男女とも2006年より5ポイント弱から10数ポイントも高くなっている。また、「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」を選ぶ割合は、高くても3%台にとどまっているが、実は2006年調査では1%前後にすぎなかった<sup>6</sup>ため、これでも大きく割合が上昇したとみなすことができる。「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」は、悩みの相談先として選択肢の一つになりつつあると考えられる。さらにもう一つ、2006年調査に比べて4つの悩みのすべてで選ぶ割合が高くなっているのが、「誰もいない」である<sup>7</sup>。特に男性でその伸びは顕著で、今回の結果ではどの悩みについても、低いもので8%台、高いものでは10%を上回る割合となっている。悩みはあるのに相談相手が誰もいないという人が、どの悩みにも一定の割合で存在するようになっている。

図表4-5 悩みの相談相手の選択割合（%）

		親・保護者	兄弟姉妹	職場やバイト先の上司	職場やバイト先の友人・同僚	学校で知り合った友人	学校の先生・職員・相談員	趣味をとる友人	恋人・配偶者	専門家や公的な支援機関	その他	誰もいない	n(人)
今の自分の仕事や働き方について	男性	44.9	12.9	29.6	42.0	35.1	2.3	23.5	25.2	2.6	4.3	9.0	652
	女性	57.2	21.8	22.2	47.2	42.5	3.4	20.6	38.7	3.6	3.7	3.0	757
		***	***	**	#	**			***			***	
これからの生き方や働き方について	男性	43.8	13.3	21.4	32.9	34.0	1.7	23.4	29.1	2.2	4.8	8.2	691
	女性	54.6	21.0	15.0	33.1	41.6	2.9	20.3	39.8	3.1	3.6	4.6	801
		***	***	**		**			***			**	
人間関係について	男性	23.5	9.5	20.2	33.8	35.8	1.3	23.3	26.8	2.2	3.9	8.8	545
	女性	44.8	19.4	15.4	40.2	44.6	1.4	23.3	36.2	2.3	3.4	4.0	726
		***	***	*	*	**			***			***	
経済的な問題(お金のこと)について	男性	57.4	9.9	11.3	19.4	16.9	1.0	12.5	26.8	1.3	3.5	12.2	608
	女性	66.4	17.6	6.6	17.2	19.2	0.8	10.2	30.7	1.0	2.6	8.5	717
		**	***	**								*	

\*\*\*p<.001、\*\*p<.01、\*p<.05、#p<.10

男女別にみると、4つの悩みに共通して、「親・保護者」「兄弟姉妹」「職場やバイト先の上司」を選ぶ割合は女性の方が男性よりも有意に高く、「誰もいない」を選ぶ割合は男性の方が女性よりも有意に高い。また「経済的問題」を除く3つの悩みで、「学校で知り合った友人」「恋人・配偶者」を選ぶ割合は女性の方が男性よりも有意に高い。2006年調査では、「職場やバイト先の上司」を選ぶ割合はこれとは逆に男性の方が女性よりも有意に高い結果だった

<sup>6</sup> 2006年調査では、「今の仕事」「これからの生き方」「人間関係」「経済的問題」のそれぞれについて、男性・女性の順に、0.9%・1.3%、1.2%・1.6%、0.4%・1.1%、0.0%・0.7%であった。

<sup>7</sup> 2006年調査では、「今の仕事」「これからの生き方」「人間関係」「経済的問題」のそれぞれについて、男性・女性の順に、3.8%・2.0%、4.0%・2.2%、4.5%・2.5%、6.6%・4.5%であった。

が、この点を除くと、おおむね 2006 年と似た傾向がみられる。

男性の「人間関係」を除き、男女・悩みの種類を問わず、「親・保護者」は悩みの相談相手として最も多く選ばれており、特に「経済的問題」では「親・保護者」と「恋人・配偶者」に集中している。また、悩みの種類によって程度は多少異なるものの、やはり職場関係の人は相談相手になっていることが多い。

続いて、相談相手の選択状況を、男女それぞれについて配偶状態別に検討する（図表 4-6）。4 つの悩みに共通するのは、男女とも有配偶者にとって「恋人・配偶者」（有配偶者なのでおそらくほとんどは配偶者だと考えられる）が、相談相手として選ばれる割合が際立って高いという点である。それ以外のほとんどの選択肢は、無配偶者で選ばれる割合に比べて有配偶者で選ばれる割合が低くなっており、特に「職場やバイト先の友人・同僚」「学校で知り合った友人」「趣味をともにする友人」はその傾向が顕著である。結婚に伴い、配偶者が男女ともさまざまな悩みの相談相手として大きな比重を占めるようになってきていること（それに対応して、それ以外の相談相手の比重は下がっていること）がわかる。このような、有配偶者における相談相手としての配偶者の比重の高さはきわめて顕著であり、相談ネットワークを検討する上で配偶状態別に検討することが必須であることを示している。

このような、有配偶者における相談相手としての配偶者の比重の高さは、2006 年調査の結果にもみられた特徴であるが、女性の有配偶者で配偶者を選ぶ人の割合は、4 つの悩みのすべてで顕著に高まっている（もともと無配偶者の場合に比べて高い割合だったのが、今回さらに高い値になっている）。また、男性の有配偶者では、「親・保護者」「職場やバイト先の上司」「学校で知り合った友人」を選ぶ割合が、2006 年に比べてほとんどの場合で大きく高まっている。

図表 4-6 悩みの相談相手の選択割合：配偶状態別（%）

		親・保護者	兄弟姉妹	職場やバイト先の上司	職場やバイト先の友人・同僚	学校で知り合った友人	学校の先生・職員・相談員	趣味をともにする友人	恋人・配偶者	専門家や公的な支援機関	その他	誰もいない	n(人)
今の自分の仕事や働き方について	男・無配偶	47.0	13.8	27.5	43.2	36.4	2.1	25.7	17.7	2.6	4.7	10.2	530
	男・有配偶	33.0	7.2	37.1	35.1	27.8	2.1	12.4	69.1	2.1	2.1	4.1	97
		*	#	#				**	***			#	
	女・無配偶	58.0	22.6	22.9	48.6	45.8	3.9	22.0	33.5	3.5	3.9	3.3	660
女・有配偶	49.3	12.3	16.4	34.2	16.4	0.0	9.6	86.3	4.1	2.7	0.0	73	
		*		*	*	***	*	***					
これからの生き方や働き方について	男・無配偶	45.2	14.1	19.8	33.9	35.9	1.6	25.4	21.1	1.6	4.8	9.3	560
	男・有配偶	34.0	7.5	28.3	25.5	25.5	0.9	13.2	74.5	4.7	3.8	3.8	106
		*	#	#	#	*		**	***			#	
	女・無配偶	55.0	22.0	15.9	35.6	45.0	3.3	21.8	34.1	3.3	3.7	4.8	694
女・有配偶	51.2	11.9	7.1	16.7	16.7	0.0	8.3	86.9	2.4	3.6	1.2	84	
		*	*	**	***		**	***					
人間関係について	男・無配偶	24.4	9.6	20.6	35.0	38.6	0.9	25.6	19.3	2.2	3.8	9.2	446
	男・有配偶	16.0	6.2	17.3	28.4	24.7	1.2	12.3	71.6	2.5	2.5	7.4	81
					*	*		*	***				
	女・無配偶	45.3	19.7	15.9	41.8	48.0	1.6	24.5	31.3	2.5	3.8	4.1	636
女・有配偶	39.1	15.9	11.6	26.1	18.8	0.0	11.6	84.1	1.4	1.4	0.0	69	
				*	***		*	***					
経済的な問題(お金のこと)について	男・無配偶	60.3	10.3	11.3	20.4	18.7	1.0	14.0	16.7	1.0	3.3	13.8	486
	男・有配偶	41.2	9.3	11.3	12.4	7.2	1.0	5.2	79.4	2.1	4.1	5.2	97
		**			#	**		**	***			*	
	女・無配偶	68.7	19.0	6.7	19.2	21.1	1.0	10.8	22.8	1.1	2.6	9.0	610
女・有配偶	45.3	5.8	3.5	7.0	8.1	0.0	5.8	86.0	0.0	3.5	3.5	86	
	***	**		**	**			***			#		

\*\*\*p<.001、\*\*p<.01、\*p<.05、#p<.10 十分なケース数がある場合のみ検定を行っている

次に、相談相手の選択状況を、男女それぞれについて就業状況（従業上の地位）別に概観する（図表4-7）。まず注目されるのは「無業、その他」であり、無業であるために相談相手に職場関係の人を選ぶ割合が低くなっており、男性の場合は「恋人・配偶者」を選ぶ割合も明確に低くなっている。そして「誰もいない」の割合は、男女とも他の就業状況のものとは比べて顕著に高くなっている。仕事についていない状態にあることが、仕事の関係に限らず、社会的な孤立と結びつきやすいことがうかがえる。また、「正社員（公務員を含む）」（以下「正社員」と略記）の方が、「非典型雇用」よりも全般に「職場やバイト先の上司」「職場やバイト先の友人・同僚」という職場関係の人を選ぶ割合が高めになっているが、その違いがより顕著なのは女性の方である。そして「恋人・配偶者」および「趣味をともにする友人」は、特に男性で「正社員」ほど「非典型雇用」より高い割合となっている。

図表4-7 悩みの相談相手の選択割合：現在の就業状況別（％）

		親・保護者	兄弟姉妹	職場やバイト先の上司	職場やバイト先の友人・同僚	学校で知り合った友人	学校の先生・職員・相談員	趣味をともにする友人	恋人・配偶者	専門家や公的な支援機関	その他	誰もいない	n(人)	
今の自分の仕事や働き方について	男・正社員（公務員含む）	42.6	12.4	33.1	46.0	36.7	1.7	19.3	29.8	0.7	3.6	7.9	420	
	男・非典型雇用	47.7	15.0	28.1	43.1	33.3	4.6	31.4	17.0	5.2	5.2	8.5	153	
	男・自営・家業	53.3	3.3	30.0	33.3	33.3	0.0	50.0	30.0	0.0	16.7	6.7	30	
	男・無業、その他	51.0	16.3	4.1	10.2	28.6	2.0	18.4	8.2	12.2	0.0	22.4	49	
				***	***			***	***					
	女・正社員（公務員含む）	58.0	23.8	25.7	53.5	47.2	3.5	18.4	39.9	2.4	2.4	2.1	424	
	女・非典型雇用	57.9	20.7	20.3	42.4	39.5	3.3	24.7	36.5	4.4	5.2	3.3	271	
	女・自営・家業	45.0	10.0	10.0	30.0	20.0	0.0	25.0	60.0	5.0	15.0	5.0	20	
	女・無業、その他	50.0	14.3	4.8	21.4	26.2	4.8	14.3	31.0	9.5	2.4	9.5	42	
					***	**								
これからの生き方や働き方について	男・正社員（公務員含む）	40.6	11.7	23.3	35.4	35.2	1.1	20.0	33.9	0.9	4.5	8.1	446	
	男・非典型雇用	46.0	15.3	19.0	33.7	31.9	4.3	28.8	21.5	3.7	4.9	7.4	163	
	男・自営・家業	57.6	12.1	33.3	30.3	36.4	0.0	48.5	33.3	0.0	15.2	3.0	33	
	男・無業、その他	57.1	22.4	4.1	8.2	28.6	0.0	20.4	8.2	10.2	0.0	16.3	49	
		*		**	**			**	***					
	女・正社員（公務員含む）	54.1	21.9	16.0	40.4	45.2	3.0	18.0	40.6	1.8	1.8	4.1	438	
	女・非典型雇用	55.9	19.7	15.3	25.8	39.3	2.7	23.4	38.3	4.4	5.1	4.1	295	
	女・自営・家業	52.4	19.0	9.5	23.8	28.6	0.0	28.6	61.9	0.0	19.0	4.8	21	
	女・無業、その他	51.1	21.3	6.4	14.9	27.7	4.3	19.1	31.9	8.5	4.3	12.8	47	
				***	*									
人間関係について	男・正社員（公務員含む）	23.2	8.1	23.5	37.0	38.1	1.1	20.2	31.7	1.1	2.8	7.6	357	
	男・非典型雇用	20.2	10.9	15.1	32.8	30.3	2.5	28.6	18.5	2.5	5.0	10.9	119	
	男・自営・家業	20.0	13.3	16.7	23.3	36.7	0.0	46.7	33.3	3.3	10.0	6.7	30	
	男・無業、その他	38.5	15.4	7.7	15.4	30.8	0.0	17.9	2.6	10.3	5.1	15.4	39	
				*	*			**	***					
	女・正社員（公務員含む）	46.0	18.9	17.9	46.7	48.4	1.9	20.1	38.5	1.5	2.7	2.9	413	
	女・非典型雇用	45.4	19.5	13.9	35.1	41.4	0.4	29.1	32.7	2.0	4.4	4.8	251	
	女・自営・家業	36.8	21.1	10.5	21.1	42.1	0.0	36.8	52.6	0.0	5.3	0.0	19	
	女・無業、その他	32.6	23.3	2.3	16.3	27.9	2.3	14.0	27.9	14.0	4.7	11.6	43	
				***	*				***					
経済的な問題（お金のこと）について	男・正社員（公務員含む）	54.9	9.8	12.2	21.5	18.3	1.1	10.3	33.7	0.5	3.4	10.3	377	
	男・非典型雇用	63.7	9.6	8.9	18.5	14.0	0.6	17.8	15.9	1.9	4.5	13.4	157	
	男・自営・家業	57.1	3.6	25.0	25.0	14.3	0.0	14.3	28.6	0.0	3.6	10.7	28	
	男・無業、その他	56.5	15.2	4.3	2.2	17.4	2.2	10.9	6.5	6.5	0.0	23.9	46	
					*				***					
	女・正社員（公務員含む）	67.8	20.4	6.5	21.5	19.9	0.8	9.5	28.9	0.8	1.9	7.4	367	
	女・非典型雇用	64.4	14.9	7.3	14.2	20.1	1.0	11.4	32.2	1.0	3.1	9.7	289	
	女・自営・家業	54.5	18.2	9.1	4.5	13.6	0.0	13.6	54.5	0.0	9.1	4.5	22	
	女・無業、その他	74.4	10.3	0.0	5.1	10.3	0.0	5.1	23.1	2.6	2.6	12.8	39	

\*\*\*p<.001、\*\*p<.01、\*p<.05、#p<.10 十分なケース数がある場合のみ検定を行っている

2006年調査の結果との比較では、男性の「正社員」で、「誰もいない」の割合が4つの悩みすべてで増加していることが注目される。

最後に、回答者の学歴による相談相手の選択状況の違いを、男女別にみることにする（図表4-8）。少数のケースになるが、「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」を選ぶ割

合をみると、男性の場合、4つの悩みのすべてで中卒・高校中退者において相対的に高くなっていることがわかる。この傾向は2006年調査でもみられたが、その数値は高いもので5%台だったのに対して、今回は軒並み5~8%台になっており、男性の中卒・高校中退者にとって「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」が相談先として一定の存在感をもつものになりつつあることがうかがわれる。また、「誰もいない」を選ぶ割合が、男性の場合、高卒の人および高等教育中退者で特に高く、4つの悩みのすべてについて10%を上回る値となっている。女性については、悩みの種類により若干傾向が異なるものの、中卒・高校中退および高等教育中退の人で「誰もいない」の割合が比較的高くなっている。学歴が相対的に低いことや中退経験が、相談相手の状況と関連している可能性がうかがわれる結果となっている。

図表4-8 悩みの相談相手の選択割合：学歴別（%）

		親・保護者	兄弟姉妹	職場やバイト先の上司	職場やバイト先の友人・同僚	学校で知り合った友人	学校の先生・職員・相談員	趣味をとる友人	恋人・配偶者	専門家や公的な支援機関	その他	誰もいない	n(人)
今の自分の仕事や働き方について	男・高卒	46.8	10.3	21.4	44.4	23.0	2.4	21.4	25.4	3.2	4.0	13.5	126
	男・専門卒	46.8	17.3	36.0	46.0	37.4	0.7	26.6	24.5	0.0	7.2	6.5	139
	男・短大・高専卒	62.5	6.3	31.3	43.8	50.0	12.5	25.0	31.3	0.0	12.5	12.5	16
	男・大学・大学院卒	40.6	11.8	31.0	44.3	41.7	2.6	20.7	27.3	3.3	2.6	7.0	271
	男・中卒・高校中退	50.0	17.6	14.7	17.6	23.5	2.9	26.5	35.3	8.8	5.9	5.9	34
	男・高等教育中退	45.5	9.1	32.7	30.9	30.9	0.0	32.7	9.1	0.0	1.8	18.2	55
					*	**							
今の自分の仕事や働き方について	女・高卒	54.1	23.5	17.3	35.7	31.6	1.0	13.3	51.0	5.1	2.0	2.0	98
	女・専門卒	58.1	21.2	24.6	48.6	42.5	4.5	22.9	38.5	4.5	3.4	3.4	179
	女・短大・高専卒	58.6	21.8	27.6	47.1	42.5	1.1	17.2	37.9	3.4	2.3	3.4	87
	女・大学・大学院卒	57.3	20.7	21.6	48.5	49.7	4.3	21.6	37.8	3.0	4.0	2.1	328
	女・中卒・高校中退	56.5	30.4	17.4	65.2	8.7	0.0	30.4	17.4	0.0	8.7	4.3	23
	女・高等教育中退	59.5	24.3	16.2	43.2	27.0	2.7	18.9	32.4	2.7	5.4	10.8	37
					***	*							
これからの生き方や働き方について	男・高卒	44.3	11.5	19.8	36.6	25.2	1.5	19.8	29.8	3.8	6.9	10.7	131
	男・専門卒	48.6	18.3	23.2	34.5	36.6	2.1	25.4	27.5	0.0	6.3	5.6	142
	男・短大・高専卒	45.0	5.0	20.0	40.0	30.0	0.0	20.0	30.0	0.0	5.0	5.0	20
	男・大学・大学院卒	42.8	11.7	20.7	34.5	40.3	2.4	23.1	31.7	2.4	3.4	7.9	290
	男・中卒・高校中退	46.2	20.5	15.4	10.3	20.5	0.0	17.9	38.5	5.1	2.6	5.1	39
	男・高等教育中退	36.2	10.3	27.6	22.4	27.6	0.0	32.8	10.3	0.0	3.4	15.5	58
					*	*		*					
これからの生き方や働き方について	女・高卒	55.8	26.5	15.9	27.4	29.2	0.9	16.8	52.2	4.4	1.8	1.8	113
	女・専門卒	52.2	17.0	13.2	33.0	40.7	2.7	25.3	39.6	4.4	2.2	6.0	182
	女・短大・高専卒	57.0	23.7	18.3	33.3	46.2	1.1	12.9	39.8	1.1	3.2	6.5	93
	女・大学・大学院卒	54.5	19.8	15.5	37.0	48.4	4.1	20.7	39.1	2.6	4.1	3.5	343
	女・中卒・高校中退	60.0	32.0	12.0	20.0	12.0	0.0	28.0	28.0	0.0	4.0	4.0	25
	女・高等教育中退	56.4	23.1	10.3	20.5	30.8	2.6	17.9	23.1	5.1	10.3	12.8	39
					***	*		*					
人間関係について	男・高卒	23.3	8.7	14.6	35.9	25.2	1.0	20.4	32.0	1.9	3.9	11.7	103
	男・専門卒	23.0	13.3	23.9	33.6	32.7	1.8	26.5	24.8	0.0	4.4	8.8	113
	男・短大・高専卒	33.3	0.0	26.7	46.7	40.0	6.7	6.7	33.3	0.0	6.7	6.7	15
	男・大学・大学院卒	22.4	8.3	20.6	34.2	44.3	0.4	22.4	27.6	2.6	3.5	6.1	228
	男・中卒・高校中退	23.5	11.8	23.5	23.5	23.5	0.0	23.5	23.5	5.9	5.9	8.8	34
	男・高等教育中退	24.4	8.9	15.6	24.4	33.3	4.4	33.3	13.3	2.2	2.2	17.8	45
					*								
人間関係について	女・高卒	48.6	23.4	12.1	28.0	31.8	0.9	17.8	47.7	2.8	2.8	3.7	107
	女・専門卒	38.1	19.0	17.9	35.7	42.9	1.2	28.0	36.9	3.0	1.2	3.6	168
	女・短大・高専卒	44.6	24.1	15.7	45.8	45.8	0.0	16.9	37.3	1.2	2.4	8.4	83
	女・大学・大学院卒	47.0	16.2	14.6	46.4	53.3	2.0	22.8	34.4	2.3	3.6	2.6	302
	女・中卒・高校中退	52.2	21.7	17.4	43.5	13.0	0.0	34.8	26.1	0.0	8.7	13.0	23
	女・高等教育中退	45.7	22.9	17.1	31.4	40.0	2.9	25.7	20.0	2.9	11.4	2.9	35
					*	***		*					
経済的な問題(お金のこと)について	男・高卒	50.4	9.4	9.4	22.0	13.4	0.8	11.0	28.3	0.8	3.9	15.0	127
	男・専門卒	66.7	15.0	15.0	23.3	17.5	0.8	12.5	20.0	0.0	4.2	11.7	120
	男・短大・高専卒	52.6	5.3	5.3	15.8	31.6	5.3	15.8	42.1	0.0	0.0	5.3	19
	男・大学・大学院卒	54.7	6.8	9.7	19.9	19.9	0.4	12.7	30.9	1.7	3.0	11.9	236
	男・中卒・高校中退	53.8	15.4	25.6	10.3	12.8	2.6	7.7	33.3	7.7	2.6	10.3	39
	男・高等教育中退	65.5	7.3	7.3	5.5	9.1	1.8	18.2	10.9	0.0	1.8	14.5	55
		#						**					
経済的な問題(お金のこと)について	女・高卒	63.5	17.4	7.0	12.2	15.7	0.0	7.0	34.8	0.9	2.6	7.0	115
	女・専門卒	62.8	19.2	7.0	20.9	25.0	1.2	12.8	31.4	1.2	1.7	7.6	172
	女・短大・高専卒	69.0	19.5	5.7	14.9	20.7	1.1	6.9	28.7	0.0	3.4	9.2	87
	女・大学・大学院卒	69.6	15.8	7.0	19.4	19.0	0.7	11.0	29.7	1.1	2.2	8.4	273
	女・中卒・高校中退	60.7	25.0	3.6	14.3	3.6	0.0	10.7	28.6	0.0	3.6	17.9	28
	女・高等教育中退	67.6	16.2	5.4	5.4	10.8	0.0	10.8	29.7	0.0	5.4	10.8	37
					#								

\*\*\*p<.001, \*\*p<.01, \*p<.05, #p<.10 十分なケース数がある場合のみ検定を行っている

#### 第4節 相談ネットワークの広がり

前節でみたのは、相談ネットワークの実態としての、誰が相談相手として選ばれているか／いないかの状況であった。つまり、回答者と相談相手の二者間の関係のみをみていたことになるわけだが、ひとつの悩みについて相談相手が一人だけとは当然限らず、複数の相談相手がいることもありうる。そこで本節では、回答者が個々の悩みにどのような相談相手の組み合わせを選んでいるのかについて検討する。つまり、一人が複数の人とどのようなネットワークをつくっているのかに注目し、相談ネットワークの広がりについて分析する。

なお、当該の質問項目では相談相手の選択肢が（「誰もいない」も含めて）11件もあるため、ここでは4つのカテゴリーに整理した。1つ目は「家族」で、これは「親・保護者」と「兄弟姉妹」からなる。2つ目は「職場関係」で、「職場やバイト先の上司」と「職場やバイト先の友人・同僚」が該当する。3つ目は「友人」で、「学校で知り合った友人」と「趣味をともにする友人」が含まれる。4つ目は「恋人・配偶者」である。相談相手として選ばれる割合がおおむね5%以下と低かった残り4つの選択肢（「学校の先生・職員・相談員」「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」「その他」「誰もいない」）は、この新しい4つのカテゴリーには含まれていない。

そして、個々のカテゴリーについて、それを構成する選択肢のうちのいずれか1つでも選択されていれば、そのカテゴリーが相談相手として選ばれているとみなす。たとえば「家族」の場合、ある回答者が「親・保護者」と「兄弟姉妹」のいずれか1つでも選択しているのであれば、その回答者は「家族」を相談相手に選んでいると考える。このようにして、11件の選択肢の選択状況を、4つのカテゴリーの選択状況に変換してとらえることにする。4つのカテゴリーのそれぞれについて、選ぶ／選ばないという2つの可能性があるため、相談ネットワークの組み合わせは16パターンあることになる。相談相手に選ばれている場合に1、選ばれていない場合に0という値を割り当て、割り当てた値を4桁に順に並べて表記すると、相談ネットワークの16パターンを4桁の数値で表現することができる（図表4-9）。たとえば、相談相手として「親・保護者」と「職場やバイト先の友人・同僚」のみを選んでいる場合、「家族」と「職場関係」というカテゴリーに該当するため、その相談ネットワークは「1100」と表記される。以下では、相談ネットワークを表現する際に、適宜この4桁の数値を用いることにする。また、4つの個々の相談先に言及する際は、それぞれを「相談チャンネル」と呼ぶことにする。

図表 4-9 相談相手の組み合わせと表記法

表記	家族	職場関係	友人	恋人・配偶者
0000	×	×	×	×
0001	×	×	×	○
0010	×	×	○	×
0011	×	×	○	○
0100	×	○	×	×
0101	×	○	×	○
0110	×	○	○	×
0111	×	○	○	○
1000	○	×	×	×
1001	○	×	×	○
1010	○	×	○	×
1011	○	×	○	○
1100	○	○	×	×
1101	○	○	×	○
1110	○	○	○	×
1111	○	○	○	○

○:相談相手として選ばれている

×:相談相手として選ばれていない

注)4桁の数値は、1000の位が「家族」、100の位が「職場関係」、10の位が「友人」、1の位が「恋人・配偶者」にそれぞれ割り当てられている。

このように整理したのは、ただ相談相手が多いか少ないかということに注目するのではなく、回答者と相談相手のつながり方の多様性をとらえることによってこそ、相談ネットワークの多様性を把握できると考えるからである。たとえば、「職場やバイト先の上司」と「職場やバイト先の友人・同僚」は異なる選択肢を設けているが、この2つが選ばれているとしても、回答者とのつながり方は上司であれ同僚であれ「職場」を介するという点で共通である。いわば、上司も同僚も同じ一つの“世界”の出身だと考えられる。これに対して、たとえば「兄弟姉妹」と「職場やバイト先の友人・同僚」の2つが選ばれているとき、この2つは回答者とのつながり方が共通ではない（「家族」と「職場」）ので、それぞれ異なる“世界”の人だとみなすことができる。したがって、「職場やバイト先の上司」と「職場やバイト先の友人・同僚」が選ばれている場合と、「兄弟姉妹」と「職場やバイト先の友人・同僚」が選ばれている場合を考えると、どちらも「2つ」の相談相手が選ばれているとみなしてしまえば、後者がいま述べたような意味でより多様なつながり方をしていることが見失われてしまうのである。ここでは、相談ネットワークがいかなる多様性を含みこんでいるかを把握するという意図があるので、11の選択肢を整理・集約するに際して、4つの異なる“世界”を表すものとして、上述の4カテゴリーを設けたというわけである<sup>8</sup>。

なお、4つのカテゴリーがどれも選ばれなかった場合は「0000」となるが、これは11の選

<sup>8</sup> もちろん、「回答者と相談相手のつながり方の多様性をとらえる」といっても、このような形で4つのカテゴリーに整理することは、唯一の方法ではない。特に、結びつきの背景を問わずに「友人」として一括している点は、つながり方の多様性をむしろ押しつぶしているともいえるかもしれない。ここでは、家族と職場関係を中心的なものとしてそれらをカテゴリーにすることを優先したため、このような整理の仕方を選んでいる。

択肢の中の「誰もいない」と同一ではない。「誰もいない」は相談相手が一切いないという意味だが、「0000」はあくまでも4カテゴリーには相談相手がいないということなので、4カテゴリーに含まれない「学校の先生・職員・相談員」「カウンセラー等の専門家や公的な支援機関」「その他」だけを相談相手として選んでいる場合も「0000」に含まれている。しかし実際にはそのようなケースは多くなく、4つの悩みのすべてにおいて、「0000」の7割以上を「誰もいない」が占めている<sup>9</sup>。

以上のような方法で16パターンに整理された相談ネットワークが、実際にどのような状況であるのかを、続けて4つの悩みごとに検討することにしよう。その際、ここまでの検討をふまえて、性別・配偶状態別に分けた上で、さらに就業状況（従業上の地位）ごとにみることにする。就業状況としては、特に「正社員（公務員を含む）」「非典型雇用」「無業、その他」の3つをとりあげて比較する（以下では、正社員・非典型雇用・無業と表現する）<sup>10</sup>。このような形で検討するのは、2006年調査の結果をふまえ、基本属性（特に就業状況）によってネットワークのあり方が規定されている可能性を考慮したためである。なお、有配偶者のうち、男性の非典型雇用、および男性・女性の無業については、該当者が少ないためここでは割愛し検討していない。

以下の検討において特に注目するのは、2006年調査でみられた傾向が、2011年調査の結果からも確認できるかという点である。この相談ネットワークに関して、2006年調査の結果を分析して見出されたのは、職場関係の人を選ぶ割合は、「正社員>非典型雇用>無業」となっており、友人や家族を選ぶ割合や、相手がいない割合は、「正社員<非典型雇用<無業」となっているという傾向の存在であった（久木元 2006, 2007）。つまり、職場関係の人が相談相手として選ばれないとき、友人や家族がより選ばれるようになるという「代替関係」の存在がうかがえる。2011年調査の結果でも、これと同じ傾向は見出せるだろうか。

まず、「今の自分の仕事や働き方」についての悩みについて検討しよう。この悩みに対して、どのような相談ネットワークのパターンが選択されているかを、性別・配偶状態・就業状況別に整理して示したのが図表4-10である。この表では、それぞれの属性の組み合わせについて、選ばれた割合が多いパターンから順に列記している。たとえば、「男性・無配偶・正社員」の場合、「0100」つまり職場関係の人にだけ相談するというパターンが15.5%を占めて最も多く、次に多いのは「1110」つまり家族・職場関係の人・友人に相談するというパターンで、13.0%を占めている、という形である。

<sup>9</sup> 「今の仕事」の場合、相談ネットワークが「0000」である人は106人（その悩みがある人全体=その悩みの相談ネットワークの回答が得られている人全体の7.5%）で、そのうち「誰もいない」と回答しているのは77.4%（82人）である。同様に、「これからの生き方」・「人間関係」・「経済的問題」の場合、それぞれ「0000」である人は131人（同8.8%）・106人（8.3%）・161人（12.2%）で、そのうち71.8%（94人）・72.6%（77人）・83.9%（135人）が「誰もいない」と回答している。

<sup>10</sup> 「自営・家業」などは、該当者数が多くないことや、典型雇用／非典型雇用の間で対比するという関心から、ここでは割愛した。

図表4-10で女性・無配偶の場合をみると、「1110」（家族・職場関係・友人）が正社員および非典型雇用で最も多くなっているが、無業では一転して非常にわずかな割合になっている。また、正社員で10.2%と2番目に多い「1100」（家族・職場関係）や、9.7%で4番目に多い「0100」（職場関係のみ）は、非典型雇用ではそれぞれ7.7%・7.3%、無業ではどちらも5.9%と、その割合を減らしている。以上のように、職場関係を含む相談ネットワークのパターンは、「正社員>非典型雇用>無業」という関係に近いものがみられる。一方、「1000」（家族のみ）は正社員では6.8%にとどまっているが、非典型雇用では10.7%で2番目に多いパターンとなり、無業では32.4%と最多のパターンとなっており、「正社員<非典型雇用<無業」という関係が確認できる。「0010」（友人のみ）や「0000」（相手がいない<sup>11</sup>）などについても、同様の関係がみられる。大まかな傾向ではあるが、少なくとも女性に関しては、2006年調査で見出された傾向が、2011年調査でもある程度みられるといえるだろう。

図表4-10 「今の自分の仕事や働き方」についての悩みの相談ネットワーク  
(2011年調査、20~29歳、%)

男性・無配偶・20~29歳						女性・無配偶・20~29歳					
正社員(公務含む)		非典型雇用		無業、その他		正社員(公務含む)		非典型雇用		無業、その他	
0100	15.5	0100	17.5	0000	26.1	1110	13.4	1110	14.2	1000	32.4
1110	13.0	1110	13.9	1000	26.1	1100	10.2	1000	10.7	0000	8.8
0000	12.4	1000	12.4	0010	13.0	1111	10.2	1010	10.3	0010	8.8
0110	10.2	0000	10.9	1010	13.0	0100	9.7	1100	7.7	1010	8.8
1010	8.4	1010	10.9	1100	6.5	0110	8.1	0010	7.3	1011	8.8
1100	8.0	0110	8.8	0001	4.3	1010	7.3	0100	7.3	0001	5.9
1000	7.7	1100	5.8	1011	4.3	1000	6.8	0110	6.4	0100	5.9
0010	5.3	0010	5.1	1110	4.3	0010	5.2	1011	5.2	0110	5.9
1111	3.7	0001	2.2	0110	2.2	1001	5.2	1111	5.2	1100	5.9
0001	3.1	0011	2.2	0011	0.0	1101	5.0	0000	4.7	1001	2.9
0011	2.2	0111	2.2	0100	0.0	1011	4.2	1001	4.7	1110	2.9
0101	2.2	1101	2.2	0101	0.0	0011	3.9	1101	4.3	1111	2.9
0111	2.2	1111	2.2	0111	0.0	0000	3.4	0011	3.9	0011	0.0
1011	2.2	0101	1.5	1001	0.0	0111	3.4	0001	3.4	0101	0.0
1101	2.2	1011	1.5	1101	0.0	0001	2.4	0101	2.6	0111	0.0
1001	1.9	1001	0.7	1111	0.0	0101	1.3	0111	2.1	1101	0.0
n(人)	323	n(人)	137	n(人)	46	n(人)	381	n(人)	233	n(人)	34

  

男性・有配偶・20~29歳		女性・有配偶・20~29歳	
正社員(公務含む)		非典型雇用	
0001	19.3	0001	21.4
0100	18.1	1101	22.6
0101	10.8	1111	16.1
1101	9.6	1011	14.3
0111	8.4	0101	12.9
1111	8.4	1001	9.7
1011	7.2	0100	9.7
1001	4.8	0100	3.2
0000	3.6	0110	3.2
0011	3.6	1000	3.2
0110	2.4	1010	3.2
1000	2.4	0000	0.0
1110	1.2	0010	0.0
0010	0.0	0011	0.0
1010	0.0	0111	0.0
1100	0.0	0010	0.0
n(人)	83	n(人)	28

<sup>11</sup> 上述したとおり、「0000」に含まれるのは相談相手が一切いないケースだけではないが、その過半数を占めるのが「誰もいない」という回答であることを考慮し、要約的に表現する際は「相手がいない」と表すことにする。

男性についてみると、正社員で最も多い「0100」（職場関係のみ）は、非典型雇用でも最も多くなっており、両者でともに2番目に多い「1110」（家族・職場関係・友人）ともども、正社員と非典型雇用で割合の数値も同水準である。「0100」も「1110」も無業では著しく割合の数値が下がっているものの、正社員と非典型雇用の割合の違いは顕著ではなく、むしろ全体として両者の相談ネットワークのパターンの分布は近いものになっている。「1000」（家族のみ）や「0000」（相手がいない）のように、その割合が「正社員<非典型雇用<無業」となっているものもあるが、2006年調査でみられた正社員と非典型雇用の間の違いは、男性に関しては曖昧になっている。

そうした状況がより明確にわかるのが、図表4-11である。これは、4つのチャンネルがそれぞれ相談相手として選ばれているパターンの合計割合を、2006年調査と今回の調査と並列的に整理して示したものである<sup>12</sup>。2006年調査の表をみると、男性・女性のどちらについても、職場関係の人を選んでいる割合が、正社員が非典型雇用よりも、そして非典型雇用が無業よりも多くなっており、「正社員>非典型雇用>無業」という関係が、より明確に成立していたことがうかがえる。また、男性で顕著に表れているが、家族や「0000」については「正社員<非典型雇用<無業」という関係が確認できる。「恋人」については、男性で「正社員>非典型雇用」となっていることがわかる。

図表4-11 「今の自分の仕事や働き方」についての悩みの、相談チャンネルごとの選択割合（2011年調査・2006年調査、20～29歳、%）

男性・無配偶・20～29歳				女性・無配偶・20～29歳			
2011年	正社員(公務含む)	非典型雇用	無業、その他	2011年	正社員(公務含む)	非典型雇用	無業、その他
家族	47.1	49.6	54.3	家族	62.5	62.2	64.7
職場関係	57.0	54.0	13.0	職場関係	61.4	49.8	23.5
友人	47.1	46.7	37.0	友人	55.9	54.5	38.2
恋人	19.5	14.6	8.7	恋人	35.7	31.3	20.6
「0000」	12.4	10.9	26.1	「0000」	3.4	4.7	8.8
n(人)	323	137	46	n(人)	381	233	34
2006年	正社員(公務含む)	非典型雇用	無業、その他	2006年	正社員(公務含む)	非典型雇用	無業、その他
家族	36.0	41.2	45.0	家族	52.7	52.0	72.7
職場関係	65.3	45.6	20.0	職場関係	66.2	52.0	22.7
友人	49.6	48.5	45.0	友人	58.1	55.1	77.3
恋人	24.8	9.6	15.0	恋人	34.2	37.8	31.8
「0000」	4.5	10.3	20.0	「0000」	4.2	1.5	0.0
n(人)	242	136	20	n(人)	260	196	22

<sup>12</sup> たとえば家族の場合だと、各パターンのうち家族を選んでいる8つ（「1000」「1001」「1010」「1011」「1100」「1101」「1110」「1111」）の割合の合計を載せている。

しかし、2011年調査の結果では、女性に関しては、職場関係で「正社員＞非典型雇用＞無業」という関係が引き続きみられるものの、男性に関しては、職場関係の人を選んだ割合において正社員と非典型雇用の間の差は約3ポイントとかなり小さくなっている。男性の場合、正社員と非典型雇用の間の差が小さくなっているのは家族・「0000」なども同様であり、恋人もまだ正社員の方が約5ポイント上回っているものの、2006年に比べて差は縮まっている。つまり、2011年の結果は、女性に関しては職場関係で「正社員＞非典型雇用＞無業」という関係が明確にみられ、他の部分で正社員と非典型雇用の差はそれほど大きくない（という、2006年にもみられた結果が引き続き確認できた）のに対して、男性は職場関係も含むすべての相談チャンネルで正社員と非典型雇用の差が小さくなり、両者の相談ネットワークの差が2006年に比べて曖昧になっていることがわかった。

実際の割合の数値に注目すると、家族に関しては男女とも正社員・非典型雇用とも2006年の数値から10ポイント前後の上昇がみられ、相談相手としての家族の存在の高まりが確認できる。また男性の正社員で、職場関係が8ポイント近く減少し、恋人も約5ポイント減少したのに対して、男性の非典型雇用では、職場関係が約8ポイント増加し、恋人は約5ポイント減少と、ちょうど反対の動きがみられ、両者の差を縮めた動きをみることができる。そして、「0000」（相手がいない）つまり家族・職場関係・友人・恋人のいずれも相談相手に選んでいないパターンの割合では、非典型雇用でほとんど変わっていないのに対して、男性の正社員では4.5%から12.4%に大きく増加していることも注目される。

なお、有配偶者の場合は、図表4-10にみるように男女とも職場関係に加えて配偶者が相談相手に選ばれているパターンの割合が非常に多く、有配偶者にとって配偶者は相談相手としてきわめて大きな存在になっていることがわかる。その中でも「0001」（配偶者のみ）は表に示したもののすべてで最も多くなっている。また職場関係は、配偶者に次いで高い割合となっているが、女性ではやはり正社員でより高い割合を占めている。こうした傾向は、2006年とおおむね同様の結果である。

以上から、「今の仕事」についての悩みの相談ネットワークに関しては、以下の諸点が指摘できる。無配偶者の場合、2006年にみられた、職場関係の人を選ぶ割合は「正社員＞非典型雇用＞無業」になるという傾向は、2011年の結果では女性に関してのみ見出せる。男性に関しては、正社員と非典型雇用の相談ネットワークの状況が、職場関係以外も含めて全体としてかなり近いものになっており、2006年のような両者の差は曖昧になっている。その変化は、正社員と非典型雇用がお互いに近づいた（職場関係と恋人の割合）面もあるが、正社員が非典型雇用に近づいた（「相手がいない」の大きな増加）面もみられることが注目される。こうした変化に伴い、2006年にみられた、職場関係の人が相談相手として選ばれないとき、友人や家族がより選ばれるようになるという代替の関係は、2011年の結果ではやや曖昧なものとなっている。有配偶者では、男女とも配偶者が特に主要な相談相手となっている。

次に、「これからの生き方や働き方」についての悩みに関して検討しよう。

図表4-12をみると、無配偶の男性のうち、正社員では「0000」（相手がいない）が最も多い（13.7%）という結果になっている。これは2006年には4.8%だったのが、「今の仕事」の場合と同様に今回大きく割合が伸びており、非典型雇用よりもその割合は若干高くなっている。職場関係を含むネットワークのパターンは、これもやはり必ずしも「正社員>非典型雇用>無業」という関係は明確ではなく、正社員と非典型雇用の差ははっきりしていない。ただし「1000」（家族のみ）は、正社員・非典型雇用・無業のそれぞれで、10.2%・19.2%・35.6%という「正社員<非典型雇用<無業」の関係がみられる。2006年調査ほど明瞭ではないものの、「今の仕事」についての悩みの場合に比べて、「これからの生き方」では職場関係以上に家族という職場以外の相談チャンネルの存在感が大きくなっている。

図表4-12 「これからの生き方や働き方」についての悩みの相談ネットワーク  
(2011年調査、20~29歳、%)

男性・無配偶・20~29歳						女性・無配偶・20~29歳					
正社員(公務含む)		非典型雇用		無業、その他		正社員(公務含む)		非典型雇用		無業、その他	
0000	13.7	1000	19.2	1000	35.6	1110	10.1	1000	15.0	1000	26.3
0010	10.2	0100	11.6	0000	20.0	0110	9.6	0010	12.6	0000	15.8
1000	10.2	0000	10.3	1010	15.6	1000	9.1	1110	11.0	1010	15.8
0100	9.9	0010	10.3	0010	11.1	1010	9.1	1010	10.6	1110	7.9
0110	9.3	1110	10.3	1110	4.4	1001	8.6	0000	6.9	0001	5.3
1110	9.3	1010	7.5	0001	2.2	0010	7.8	1100	6.1	0010	5.3
1010	8.5	0110	6.8	0101	2.2	1111	6.8	0011	5.3	0100	5.3
1100	6.1	1100	4.8	0110	2.2	0100	6.6	1001	5.3	1001	5.3
0001	5.0	0001	4.1	1001	2.2	1011	5.8	1011	4.9	1011	5.3
0011	4.1	1111	4.1	1011	2.2	1100	5.6	1111	4.9	0011	2.6
1101	3.5	0011	3.4	1100	2.2	0000	5.1	0110	4.1	1100	2.6
0111	2.6	1001	3.4	0011	0.0	0001	4.5	1101	3.7	1111	2.6
1111	2.6	0101	2.1	0100	0.0	0111	3.8	0001	3.3	0101	0.0
0101	2.0	0111	1.4	0111	0.0	1101	3.3	0100	3.3	0110	0.0
1001	1.5	1101	0.7	1101	0.0	0011	3.0	0101	2.0	0111	0.0
1011	1.5	1011	0.0	1111	0.0	0101	1.3	0111	1.2	1101	0.0
n(人)	343	n(人)	146	n(人)	45	n(人)	396	n(人)	246	n(人)	38

  

男性・有配偶・20~29歳		女性・有配偶・20~29歳	
正社員(公務含む)		正社員(公務含む)	
0001	26.7	0001	25.0
0101	12.2	1001	18.8
1111	10.0	1111	15.6
0100	6.7	1101	12.5
0111	6.7	1000	9.4
1011	6.7	1011	6.3
1101	6.7	0000	2.6
0000	5.6	0000	3.1
1000	5.6	0101	3.1
1001	5.6	1100	3.1
0010	4.4	1110	3.1
0011	3.3	0010	0.0
0110	0.0	0011	0.0
1010	0.0	0100	0.0
1100	0.0	0110	0.0
1110	0.0	0111	0.0
n(人)	90	n(人)	32

  

女性・有配偶・20~29歳	
非典型雇用	
0001	34.2
1001	28.9
0011	7.9
1011	7.9
1101	7.9
0000	2.6
0010	2.6
0100	2.6
1100	2.6
1110	2.6
0100	0.0
0011	0.0
0100	0.0
0110	0.0
0111	0.0
0111	0.0
1010	0.0
1010	0.0
n(人)	38

無配偶の女性の場合、「0110」（職場関係・友人）など、職場関係を含むネットワークのパターンで、「正社員>非典型雇用>無業」という関係がみられるものがある。そして男性と同様に、「1000」（家族のみ）は「正社員<非典型雇用<無業」という関係になっている。女性についても、今ではなくこれからを考えると、職場関係にとどまらない、より長い（ある

いは深い) 関わりのある別の人間関係にこそ相談するということなのかもしれない。なお有配偶者の男女では、やはり配偶者が相談相手として抜きん出ているようである。

さらに図表4-13をみると、無配偶の男性では、2006年には職場関係で「正社員>非典型雇用>無業」という関係があることがうかがえ、恋人については正社員と非典型雇用の差は小さくない。しかし2011年には、職場関係・恋人の両方で、正社員と非典型雇用の割合の差は5ポイント以下にまで縮まり、「今の仕事」の場合と同様に両者の差は曖昧になっている。また正社員で「相手がいない」が大きく増加しているのも同じである。その中で、家族に関してどちらの年も「正社員<非典型雇用<無業」という関係がみられるという特徴もある。無配偶の女性では、「正社員>非典型雇用>無業」という関係が2006年に続いて2011年にもみられることがわかる。

図表4-13 「これからの生き方や働き方」についての悩みの、相談チャンネルごとの選択割合(2011年調査・2006年調査、20~29歳、%)

男性・無配偶・20~29歳				女性・無配偶・20~29歳			
2011年	正社員(公務含む)	非典型雇用	無業、その他	2011年	正社員(公務含む)	非典型雇用	無業、その他
家族	43.1	50.0	62.2	家族	58.3	61.4	65.8
職場関係	45.5	41.8	11.1	職場関係	47.0	36.2	18.4
友人	48.1	43.8	35.6	友人	56.1	54.5	39.5
恋人	22.7	19.2	8.9	恋人	37.1	30.5	21.1
「0000」	13.7	10.3	20.0	「0000」	5.1	6.9	15.8
n(人)	343	146	45	n(人)	396	246	38

  

2006年	正社員(公務含む)	非典型雇用	無業、その他	2006年	正社員(公務含む)	非典型雇用	無業、その他
家族	41.1	44.9	50.0	家族	55.0	54.2	70.8
職場関係	44.1	35.3	16.7	職場関係	43.6	31.3	8.3
友人	50.4	53.3	45.8	友人	56.4	59.5	66.7
恋人	27.0	10.8	12.5	恋人	35.3	38.8	37.5
「0000」	4.8	11.4	16.7	「0000」	3.5	5.3	0.0
n(人)	270	167	24	n(人)	260	196	22

続いて、「人間関係」についての悩みである。図表4-14ではややわかりにくいですが、図表4-15をみると、職場関係に関して、この悩みについては無配偶の女性だけでなく男性についても、2006年・2011年とも「正社員>非典型雇用>無業」という関係がみられることがわかる。また両年とも、家族を選ぶ割合が、無配偶の男女間で就業状況によらず大きく異なっている。男性にとって、人間関係の悩みの相談相手として家族は優先度が低い存在なのかもしれない。そしてこの悩みでも、無配偶の男性正社員で「0000」(相手がいない)の割合が大きく伸びていることが確認できる。なお有配偶者での配偶者の存在の大きさは、これまでの悩みと同様である。

図表4-14 「人間関係」についての悩みの相談ネットワーク  
(2011年調査、20~29歳、%)

「人間関係」についての悩みの相談ネットワーク

男性・無配偶・20~29歳

正社員(公務含む)	非典型雇用	無業、その他
0100	18.1	0100 20.2 1000 31.4
0010	17.0	0010 17.4 0010 22.9
0110	13.0	0000 13.8 0000 17.1
0000	10.8	1000 11.9 0100 5.7
1000	6.5	0011 8.3 1010 5.7
0011	5.8	0110 7.3 1100 5.7
1110	5.8	0001 4.6 1110 5.7
0001	5.4	1010 4.6 0101 2.9
1010	4.0	1100 3.7 0110 2.9
1100	4.0	1110 3.7 0001 0.0
0111	2.9	0111 1.8 0011 0.0
1111	2.5	1111 1.8 0111 0.0
1101	1.8	0101 0.9 1001 0.0
0101	1.1	1001 1011 0.0
1001	0.7	1011 1101 0.0
1011	0.7	1101 1111 0.0
n(人)	277	n(人) 109 n(人) 35

「人間関係」についての悩みの相談ネットワーク

女性・無配偶・20~29歳

正社員(公務含む)	非典型雇用	無業、その他
0110	10.7	1010 13.5 1000 25.7
1110	10.7	0010 12.6 0000 17.1
0100	9.9	1110 10.7 1010 14.3
0010	9.4	0100 9.3 0001 11.4
1111	8.3	0000 7.4 0010 8.6
1010	7.5	0110 7.4 1011 8.6
1000	7.2	1000 7.4 0100 5.7
1011	5.9	0011 5.1 0110 2.9
1100	5.6	1100 4.7 0111 2.9
0001	4.5	1011 4.2 1110 2.9
0000	4.3	1001 3.7 0011 0.0
0111	4.0	0001 3.3 0101 0.0
0011	3.7	0111 3.3 1001 0.0
1001	3.5	1111 3.3 1100 0.0
1101	2.7	1101 2.8 1101 0.0
0101	2.1	0101 1.4 1111 0.0
n(人)	374	n(人) 215 n(人) 35

男性・有配偶・20~29歳

正社員(公務含む)	
0001	35.2
0100	11.3
0101	8.5
0111	8.5
1111	8.5
1001	7.0
0000	5.6
0011	5.6
0010	4.2
1000	2.8
0110	1.4
1011	1.4
1010	0.0
1100	0.0
1101	0.0
1110	0.0
n(人)	71

女性・有配偶・20~29歳

正社員(公務含む)	非典型雇用
0001	23.3 1001 26.9
0101	13.3 0101 19.2
1000	13.3 0001 11.5
1001	13.3 0011 11.5
1011	10.0 1011 7.7
1111	10.0 1101 7.7
1101	6.7 0010 3.8
0011	3.3 0100 3.8
0110	3.3 1000 3.8
0111	3.3 1010 3.8
0000	0.0 0000 0.0
0010	0.0 0110 0.0
0100	0.0 0111 0.0
1010	0.0 1100 0.0
1100	0.0 1110 0.0
1110	0.0 1111 0.0
n(人)	30 n(人) 26

図表 4-15 「人間関係」についての悩みの、相談チャンネルごとの  
選択割合（2011年調査・2006年調査、20～29歳、%）

男性・無配偶・20～29歳

2011年	正社員(公 務含む)	非典型雇 用	無業、そ の他
家族	26.0	25.7	48.6
職場関係	49.1	39.4	22.9
友人	51.6	45.0	37.1
恋人	20.9	17.4	2.9
「0000」	10.8	13.8	17.1
n(人)	277	109	35

  

2006年	正社員(公 務含む)	非典型雇 用	無業、そ の他
家族	25.3	17.4	35.7
職場関係	50.7	44.0	14.3
友人	53.8	61.5	64.3
恋人	21.7	11.0	21.4
「0000」	5.0	9.2	14.3
n(人)	221	109	14

女性・無配偶・20～29歳

2011年	正社員(公 務含む)	非典型雇 用	無業、そ の他
家族	51.3	50.2	51.4
職場関係	54.0	42.8	14.3
友人	60.2	60.0	40.0
恋人	34.8	27.0	22.9
「0000」	4.3	7.4	17.1
n(人)	374	215	35

  

2006年	正社員(公 務含む)	非典型雇 用	無業、そ の他
家族	40.1	42.9	73.7
職場関係	49.4	38.3	15.8
友人	61.9	59.7	63.2
恋人	32.3	37.2	36.8
「0000」	3.9	5.1	0.0
n(人)	257	196	19

最後に、「経済的な問題」についての悩みであるが（図表 4-16）、この悩みについては「1000(家族のみ)」が就業状態を問わず無配偶の男女のすべてにおいて最も多くなっており、しかも非常に高い割合で、他のものに大きく差をつけている。お金に関わる悩みは家族以外に相談しにくいという感覚が広く共有されていることをうかがわせる結果だが、これは2006年の調査でも同様の結果が確認されている。2006年と異なるのは、就業状態によらず無配偶の男女のすべてにおいて、「0000」（相手がいない）が2番目に多くなっているという点である。2006年も「相手がいない」はある程度選ばれていたが、2011年では特に男女の非典型雇用と無業でその割合が伸び、このような結果になっている。そしてこの悩みも、図表 4-17をみると、職場関係に関して、無配偶の男性・女性の両方で、2006年・2011年とも「正社員＞非典型雇用＞無業」という関係があることがわかる。有配偶者については、他の悩みと同様に配偶者の存在が大きい、加えて「1001」（家族・配偶者）の割合も大きく、無配偶者にみられた家族の存在の大きさは有配偶者にも共通していることがわかる。

図表 4-16 「経済的な問題（お金のこと）」についての悩みの相談ネットワーク  
(2011年調査、20~29歳、%)

正社員(公務含む)						非典型雇用						無業、その他					
1000	31.0	1000	36.4	1000	45.2	1000	40.4	1000	36.6	1000	48.5						
0000	14.6	0000	17.1	0000	26.2	0000	8.8	0000	12.1	0000	18.2						
1100	8.2	1010	8.6	0010	9.5	1001	7.9	1010	12.1	1001	9.1						
0001	6.4	0010	5.7	1010	7.1	1100	6.1	0001	7.3	1010	9.1						
1010	6.0	0100	5.7	0001	2.4	1010	5.8	1110	6.0	1011	6.1						
0010	5.3	1001	5.7	0110	2.4	0001	4.6	1001	4.7	0001	3.0						
0100	5.3	1100	5.0	1001	2.4	1110	4.6	1100	4.7	0100	3.0						
1110	5.3	1110	5.0	1101	2.4	0010	4.0	1011	3.4	1100	3.0						
0110	4.6	0110	3.6	1110	2.4	0100	3.6	0110	2.6	0010	0.0						
1001	4.6	0001	2.1	0011	0.0	0110	3.6	0100	2.2	0011	0.0						
1111	2.1	1111	2.1	0100	0.0	1111	3.3	1111	2.2	0101	0.0						
0011	1.8	1011	1.4	0101	0.0	1011	2.7	0010	1.7	0110	0.0						
0111	1.4	0101	0.7	0111	0.0	1101	2.1	0011	1.3	0111	0.0						
0101	1.1	0111	0.7	1011	0.0	0011	1.2	1101	1.3	1101	0.0						
1011	1.1	0011	0.0	1100	0.0	0111	0.9	0101	0.9	1110	0.0						
1101	1.1	1101	0.0	1111	0.0	0101	0.3	0111	0.9	1111	0.0						
n(人)	281	n(人)	140	n(人)	42	n(人)	329	n(人)	232	n(人)	33						

  

男性・有配偶・20~29歳		女性・有配偶・20~29歳	
正社員(公務含む)		正社員(公務含む)	
0001	36.6	0001	43.5
1001	26.8	1001	30.4
0000	7.3	1011	10.0
1000	7.3	0000	6.5
1101	6.1	0000	3.3
1111	4.9	0010	3.3
0101	3.7	0101	3.3
0011	2.4	0110	3.3
0100	2.4	1000	3.3
0111	1.2	1101	3.3
1011	1.2	1111	3.3
0010	0.0	0011	0.0
0110	0.0	0100	0.0
1010	0.0	0110	0.0
1100	0.0	0011	0.0
1110	0.0	0100	0.0
n(人)	82	n(人)	30

図表 4-17 「経済的な問題（お金のこと）」についての悩みの、相談チャンネルごとの  
選択割合（2011年調査・2006年調査、20~29歳、%）

男性・無配偶・20~29歳

2011年	正社員(公務含む)	非典型雇用	無業、その他
家族	59.4	64.3	59.5
職場関係	29.2	22.9	7.1
友人	27.8	27.1	21.4
恋人	19.6	12.9	7.1
「0000」	14.6	17.1	26.2
n(人)	281	140	42

女性・無配偶・20~29歳

2011年	正社員(公務含む)	非典型雇用	無業、その他
家族	72.9	71.1	75.8
職場関係	24.6	20.7	6.1
友人	26.1	30.2	15.2
恋人	23.1	22.0	18.2
「0000」	8.8	12.1	18.2
n(人)	329	232	33

2006年	正社員(公務含む)	非典型雇用	無業、その他
家族	58.7	63.4	71.4
職場関係	29.6	17.6	9.5
友人	20.4	30.1	38.1
恋人	18.3	10.5	9.5
「0000」	12.2	11.8	0.0
n(人)	230	153	21

2006年	正社員(公務含む)	非典型雇用	無業、その他
家族	72.6	67.0	70.0
職場関係	20.3	15.5	5.0
友人	23.6	31.1	25.0
恋人	26.6	33.5	20.0
「0000」	7.2	6.3	5.0
n(人)	237	206	20

以上、4つの悩みごとに相談ネットワークの広がりについて検討してきた。2006年の調査での主要な発見であった、「職場関係の人を選ぶ割合が、「正社員>非典型雇用>無業」となる傾向」は、2011年の調査結果では、無配偶の女性に関しては2006年に続いておおむね同様の傾向がみられた。しかし、無配偶の男性に関して、特に「今の仕事」と「これからの生き方」の二つの悩みについては、正社員と非典型雇用との間の相談ネットワークの違いは曖昧になっており、正社員と非典型雇用との間で職場関係の人を選ぶ割合に顕著な違いはみられなくなっていた。また、2006年の結果でみられた職場関係と家族や友人との代替関係も、それに伴い曖昧になっていた。そして、無配偶の男性正社員において、多くの悩みで「相手がない」という人の割合の増加が確認された。これは2006年には、職場関係が加わらない分を代替しきれず「相手がない」になると考えられたが、2011年は職場関係が加わりやすいと想定されていた正社員で「相手がない」が増えており、この面でも代替という形ではとらえきれないことになっていると思われる。

2006年の結果の示唆として、職場が相談相手を提供する場として重要性をもつこと、特に正社員にとってそうであり、非典型雇用ではそれほどではなく、無業ではきわめて希薄になるということがあった。しかし2011年の結果では、無業はともかくとして、悩みの種類によっては、非典型雇用だからといって正社員よりも職場関係の相談相手がいる可能性が低いとは限らなくなっている。少なくとも20代の無配偶者の男性の場合、非典型雇用であるからといって“世界”が広がりにくくなっているとは言いにくくなっている。

正社員の側からみても、特に男性の正社員において「相手がない」という人の割合は、2011年の結果では非典型雇用と同水準かそれ以上に達している。正社員であるからといって相談相手の存在が保障されるというわけではなく、「相手がない」という事態が起こるリスク自体は、少なくとも20代の無配偶男性については、正社員と非典型雇用のあいだで顕著な差がみられなくなりつつあるといえる。

## 第5節 相談チャンネル数の状況

相談ネットワークの選択状況を検討した前節に続き、本節では、複数の相談チャンネルを利用しているかどうかという点に注目して分析する。前節でもある程度視野に入れて論じていたが、個々の悩みの相談相手の選択が、限られた相談チャンネルのみを選んでいるのか、それとも複数の相談チャンネルを選んでいるのかという点に焦点を合わせて検討する。ここでは特に、無配偶者に限って検討する。

個々の悩みに対する相談ネットワークのパターンを、相談チャンネル数によって集約し集計しなおしたのが図表4-18~21である。相談チャンネル数とは、4つの相談先（家族、職場関係、友人、恋人・配偶者）のうちいくつを選択しているかである。たとえば、これらの表で相談チャンネル数が3の欄にある数値（%）は、「0111」「1011」「1101」「1110」の4パターンでの相談ネットワークの合計割合である。そしてここでは、平均相談チャンネル数

に注目する。2006年の結果では、正社員・非典型雇用・無業で平均相談チャンネル数を比較したとき、多くの悩みで男女とも正社員ほど相談チャンネル数が多く、非典型雇用はそれより少なく、無業はさらに少ないという、「正社員＞非典型雇用＞無業」という傾向がうかがえた。その背景には、相談チャンネル数に職場関係が加わる度合いが高い（正社員ほど職場関係に相談相手を有している分、チャンネル数が多くなる）と考えられた。その結果と比較するために、図表4-18～21には、それぞれ2006年の平均相談チャンネル数も記載している。順にみていこう。

「今の仕事」についての悩みの場合（図表4-18）、男女とも正社員ほど相談チャンネル数が多く、無業ほど相談チャンネル数が少ないという傾向がみられる。ただし男性の場合、正社員と非典型雇用の間での相談チャンネル数の差はわずかであり（1.71と1.65の差）、女性と比べて「正社員＞非典型雇用＞無業」という関係は明確なものではない。相談チャンネル数でも、正社員と非典型雇用との差は、男性の場合2006年に比べてやはり曖昧なものになっていることがわかる。そしてそのような変化は、相談チャンネル数からみる限りでは、正社員の側ではなく非典型雇用の側の変化（チャンネル数の増加）によるものである。男性の正社員は、既にみたようにチャンネル数が「0」（すなわち相談ネットワークが「0000」（相手がいない））の割合が2006年に比べ大きく増加し、非典型雇用よりも高い割合になっているが、平均相談チャンネル数自体の2006年からの変化は、微減にとどまっている。一方、女性の場合は相談チャンネル数が明確に「正社員＞非典型雇用＞無業」となっている。相談チャンネル数が「0」の割合も無業ほど高く、相談ネットワークに職場関係が加わらない分の差（の一部）が、平均相談チャンネル数の差に現れていると思われる。また女性の場合、2006年もみられた特徴であるが、全般に平均相談チャンネル数が男性よりも多く、女性が男性よりも多チャンネルの相談ネットワークを有していることがわかる。なお女性の方が多いという点は、後述の他の悩みも含め4つの悩みすべてに共通している。

図表4-18 今の自分の仕事や働き方についての悩みと相談チャンネル数  
(20～29歳、%)

チャンネル数	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・非典型	男性・無配偶・無業その他	チャンネル数	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・非典型	女性・無配偶・無業その他
0	12.4	10.9	26.1	0	3.4	4.7	8.8
1	31.6	37.2	43.5	1	24.1	28.8	52.9
2	32.8	29.9	21.7	2	36.2	35.6	23.5
3	19.5	19.7	8.7	3	26.0	25.8	11.8
4	3.7	2.2	0.0	4	10.2	5.2	2.9
平均チャンネル数	1.71	1.65	1.13	平均チャンネル数	2.15	1.98	1.47
2006年	1.76	1.45	1.25	2006年	2.11	1.97	2.05
n(人)	323	137	46	n(人)	381	233	34

「これからの生き方」についての悩みの場合（図表4-19）も、「今の仕事」のときと同様に、男女とも平均相談チャンネル数は「正社員＞非典型雇用＞無業」となっているものの、女性では正社員・非典型雇用・無業の間の数値の差がある程度明確なのに対して、男性では正社員と非典型雇用の間の差が小さい（1.59 と 1.55）ため、やや曖昧な関係となっている。またこの悩みでも、男性では正社員で相談チャンネル数が「0」の割合が高くなっているが、そのことが2006年に比べて全体の平均相談チャンネル数を顕著に下げるまでには至っていない（これは他の悩みでも共通している）。

図表4-19 これからの生き方や働き方についての悩みと相談チャンネル数  
(20～29歳、%)

チャンネル数	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・非典型	男性・無配偶・無業その他	チャンネル数	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・非典型	女性・無配偶・無業その他
0	13.7	10.3	20.0	0	5.1	6.9	15.8
1	35.3	45.2	48.9	1	28.0	34.1	42.1
2	31.5	28.1	24.4	2	37.1	33.3	26.3
3	16.9	12.3	6.7	3	23.0	20.7	13.2
4	2.6	4.1	0.0	4	6.8	4.9	2.6
平均チャンネル数	1.59	1.55	1.18	平均チャンネル数	1.98	1.83	1.45
2006年	1.63	1.44	1.25	2006年	1.90	1.84	1.83
n(人)	343	146	45	n(人)	396	246	38

「人間関係」（図表4-20）についての悩みは、前二者と同様に男女とも平均相談チャンネル数は「正社員＞非典型雇用＞無業」となっており、しかもこの悩みでは男性においても正社員と非典型雇用の差はある程度明確になっている。

図表4-20 人間関係についての悩みと相談チャンネル数  
(20～29歳、%)

チャンネル数	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・非典型	男性・無配偶・無業その他	チャンネル数	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・非典型	女性・無配偶・無業その他
0	10.8	13.8	17.1	0	4.3	7.4	17.1
1	46.9	54.1	60.0	1	31.0	32.6	51.4
2	28.5	24.8	17.1	2	33.2	35.8	17.1
3	11.2	5.5	5.7	3	23.3	20.9	14.3
4	2.5	1.8	0.0	4	8.3	3.3	0.0
平均チャンネル数	1.48	1.28	1.11	平均チャンネル数	2.00	1.80	1.29
2006年	1.52	1.34	1.36	2006年	1.84	1.78	1.89
n(人)	277	109	35	n(人)	374	215	35

「経済的な問題」(図表4-21)は、既にみたように家族への集中度が高いこともあってやや他と傾向が異なることも予想されたが、結果としてはこれも男女とも平均相談チャンネル数は「正社員>非典型雇用>無業」という関係になっている。ただし男女とも正社員と非典型雇用の差は小さく、また家族への集中ゆえにチャンネル数の値も他の悩みに比べて小さいものになっている。

図表4-21 経済的な問題(お金のこと)についての悩みと相談チャンネル数  
(20~29歳、%)

チャンネル数	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・非典型	男性・無配偶・無業その他	チャンネル数	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・非典型	女性・無配偶・無業その他
0	14.6	17.1	26.2	0	8.8	12.1	18.2
1	48.0	50.0	57.1	1	52.6	47.8	54.5
2	26.3	23.6	11.9	2	24.9	26.3	21.2
3	8.9	7.1	4.8	3	10.3	11.6	6.1
4	2.1	2.1	0.0	4	3.3	2.2	0.0
平均チャンネル数	1.36	1.27	0.95	平均チャンネル数	1.47	1.44	1.15
2006年	1.27	1.22	1.29	2006年	1.43	1.47	1.20
n(人)	281	140	42	n(人)	329	232	33

無業のケース数が多くないなどの理由で、統計的な有意性の検討を十分に行えないものもあり、あくまでも大まかな指摘として述べることにならざるをえないが、その限りにおいてここで見出されたことを以下のようにまとめることができる。第一に、2006年調査の結果から見出された、正社員よりも非典型雇用の方が、そしてそれよりも無業の方が、相談ネットワークの平均チャンネル数が少数になる傾向は、2011年調査の結果からも(多少曖昧になっている面もあるものの)基本的に見出すことができる。非典型雇用や無業であることによって、単に相談チャンネルの一つとしての職場関係の分が欠けやすくなったり、さらには相談ネットワーク全体のあり方が多方向的でない形でつくられたりする可能性は、2006年調査ほどの明確さはないかもしれないが、基調として無視できないものである。第二に、第一の点の例外として、「今の仕事や働き方」についての悩み、および「これからの生き方や働き方」についての悩みという、自分自身の働き方や生き方に直接関わる悩みに関しては、第一の点は必ずしも明確ではないことがある。具体的には、この二つの悩みに関しては、無配偶の男性の正社員と非典型雇用の間で相談ネットワークや相談チャンネルの状況に大きな差はみられなくなっている。第三に、無配偶の男性の正社員において、家族・職場関係・友人・恋人のいずれにも相談相手をもたない人たちが、2006年調査より大きく増加して10%を上回るほどにまでなっている。

第二・第三の点は、20代の男性の仕事や生活の状況と今後の展開を考える上で、注目すべ

き点であるといえよう。以下では、それぞれについてさらなる検討を行う。

## 第6節 相談チャンネル数の年齢層別の推移

まず、「今の仕事や働き方」についての悩み、および「これからの生き方や働き方」についての悩みという、自分自身の働き方や生き方に直接関わる悩みに関しては、無配偶の男性の正社員と非典型雇用の間で相談ネットワークや相談チャンネルの状況に大きな差はみられなくなっているという点である。確かに、この二つの悩みに関する平均相談チャンネル数は、正社員の方が非典型雇用よりも若干多いものの、その差は0.1にも満たないわずかなものにすぎなかった。

では、その程度の差にすぎないのなら、今後は両者の差はさらに小さくなっていくのだろうか。あるいは、また別の展開を見せるのだろうか。そのことのヒントになりうる分析として、ここでは回答者の年齢層別に分けて検討することを試みる。つまり、これまでは20歳代の無配偶の男性たちをそのまま分析してきたが、これを20～24歳と25～29歳の二つの年齢層にわけて、平均相談チャンネル数を算出することにする。

その結果が、図表4-22である。二つの年齢層の間で、相談チャンネル数の関係がどうなっているかに着目すると、2011年の結果の場合、4つの悩みのほとんどで、20～24歳の正社員と非典型雇用間の数値の差よりも、25～29歳の数値の差の方が大きくなっている。たとえば「今の仕事」についての悩みの場合、年齢層に分けずに行った分析では無配偶男性の正社員と非典型雇用の割合は1.71と1.65であった(差は0.06)が、20～24歳では1.73と1.71(差は0.02)と、それよりもさらに近い値であった。しかし25～29歳では、1.69と1.58(差は0.11)となり、より広がっていることがこの表からわかる。

つまり、無配偶男性の正社員と非典型雇用間で、相談チャンネル数が近い値であったとしても、それは一時的な状態であって、その後加齢を経て差が広がっていく可能性がある。図表4-22に示したように、少なくとも20代の前半と後半で4つの悩みについて調べると、ほとんどの場合20代後半で平均相談チャンネル数の値の差は広がってしまっている。この傾向が続くのだとすれば、回答者が30代になったとき、さらに正社員と非典型雇用間で相談チャンネル数の差が広がることが予想される。

そして実際、2011年に同じ調査項目で30歳代の未婚者を対象に実施された調査<sup>13</sup>に関して、そのデータを分析すると、30～34歳の無配偶の男女では、4つの悩みのほとんどにおいて相談チャンネル数が「正社員>非典型雇用」となることが確認された。しかもこの正社員と非典型雇用の差は、非常に大きく顕著なものであった<sup>14</sup>。30歳代前半の無配偶の男性では、正社員の相談チャンネル数よりも非典型雇用の相談チャンネル数はきわめて少なくなっていた

<sup>13</sup> 「第3回 若者のワークスタイル調査」と同じ調査票で、東京都の30歳代の男女を対象に2011年に実施された労働政策研究・研修機構の調査。

<sup>14</sup> これは当該調査のクリーニング完了前のデータを、試行的に分析した暫定的な結果である。

のである。

図表4-22 年齢層別の平均相談チャンネル数（無配偶、20～29歳）

Q20a 今の自分の仕事や働き方について

男性・無配偶

	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・非典型	男性・無配偶・無業その他
2006年			
20～24歳	1.71	1.48	1.45
25～29歳	1.78	1.40	1.00
2011年			
20～24歳	1.73	1.71	1.11
25～29歳	1.69	1.58	1.15

女性・無配偶

	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・非典型	女性・無配偶・無業その他
2006年			
20～24歳	2.02	1.91	2.08
25～29歳	2.19	2.03	2.00
2011年			
20～24歳	2.20	2.07	1.50
25～29歳	2.11	1.79	1.40

Q20b これからの生き方や働き方について

男性・無配偶

	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・非典型	男性・無配偶・無業その他
2006年			
20～24歳	1.56	1.51	1.42
25～29歳	1.67	1.32	1.08
2011年			
20～24歳	1.53	1.57	1.18
25～29歳	1.64	1.52	1.18

女性・無配偶

	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・非典型	女性・無配偶・無業その他
2006年			
20～24歳	1.87	1.82	1.83
25～29歳	1.93	1.86	1.83
2011年			
20～24歳	1.93	1.87	1.46
25～29歳	2.04	1.74	1.42

Q20c 人間関係について

男性・無配偶

	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・非典型	男性・無配偶・無業その他
2006年			
20～24歳	1.45	1.43	1.40
25～29歳	1.56	1.19	1.25
2011年			
20～24歳	1.47	1.31	0.93
25～29歳	1.48	1.24	1.24

女性・無配偶

	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・非典型	女性・無配偶・無業その他
2006年			
20～24歳	1.76	1.79	2.10
25～29歳	1.90	1.77	1.67
2011年			
20～24歳	2.02	1.84	1.40
25～29歳	1.98	1.73	1.00

Q20d 経済的な問題(お金のこと)について

男性・無配偶

	男性・無配偶・正社員	男性・無配偶・非典型	男性・無配偶・無業その他
2006年			
20～24歳	1.22	1.28	1.18
25～29歳	1.31	1.11	1.40
2011年			
20～24歳	1.35	1.30	1.00
25～29歳	1.37	1.23	0.92

女性・無配偶

	女性・無配偶・正社員	女性・無配偶・非典型	女性・無配偶・無業その他
2006年			
20～24歳	1.39	1.46	1.10
25～29歳	1.46	1.49	1.30
2011年			
20～24歳	1.44	1.53	1.09
25～29歳	1.50	1.26	1.30

そのことから、2006年調査から見出された正社員／非典型雇用／無業の違いと相談ネットワークや相談チャンネル数の関連は、完全には否定しがたい、根強い傾向性なのだと考えられる。相談ネットワークに関して正社員の状況に非典型雇用の状況が近づいたからといっても、非典型雇用であり続けることは、将来的に相談チャンネル数が小さいものになってしまうリスクをはらんだものなのだとはいえよう。

## 第7節 無配偶男性正社員における「相談相手がいない」こと

続けて、無配偶の男性の正社員において、家族・職場関係・友人・恋人のいずれにも相談相手をもたない人たちが、2006年調査より大きく増加して4つの悩みのすべてで10%を上回るほどにまでなっていることについてである。この「相手がいない」人たちが、なぜ正社員において増加したのだろうか。

相談相手をもたないということの背景を探るにあたり、相談そのものを忌避しているからというように当事者の意識に原因を求めることもできるかもしれないが、ここではそうではなく、そもそも相談をすることが難しいような状況に置かれてしまっている可能性を考えることにしたい。そこでここでは、正社員が対象であることをふまえ、労働時間をとりあげることにする。

図表4-23は、無配偶の男性の正社員を対象に、4つの悩みについて、相談チャンネル数ごとに週の労働時間の平均値（上下5%を除いて算出）を整理したものである。きわだって顕著であるとまでは言いがたいものの、いずれの悩みについても相談チャンネル数が「0」つまり「相手がいない」人は、相談チャンネル数がより多い人よりも労働時間が長いことがうかがえる。

さらなる検討が必要ではあるものの、労働時間の長さゆえに、結果的に悩みの相談をするような関係を（あまり）もたない状態が帰結されてしまうという可能性は、考慮する必要があると思われる。

図表4-23 悩みの相談チャンネル数と週労働時間  
(無配偶・男性・正社員、20~29歳)

相談チャンネル数	0	1	2	3	4
今の仕事	53.8	48.5	51.0	52.1	49.3
これからの働き方	52.6	49.6	49.3	52.6	49.2
人間関係	58.4	49.2	48.9	53.9	48.7
経済的な問題	53.8	50.1	50.2	50.1	44.0

注：上下5%を除いた平均値、単位は時間

## 第8節 おわりに

以上の考察から得られた知見を、以下にまとめる。

第一に、2006年調査の結果から見出された、悩みの相談相手に職場関係の人を選ぶ割合が「正社員>非典型雇用>無業」という関係になること、そしてそれと呼応して、正社員よりも非典型雇用の方が、そしてそれよりも無業の方が、相談ネットワークの平均チャンネル数が少数になる傾向は、2011年調査の結果からも（多少曖昧になっている面もあるものの）基本的に見出すことができる。非典型雇用や無業であることによって、相談チャンネルの一つとしての職場関係の分が欠けやすくなったり、さらには相談ネットワーク全体のあり方が多方向的でない形でつくられたりする可能性は、基調として今なお無視できないものである。

第二に、第一の点の例外として、「今の仕事や働き方」についての悩み、および「これからの生き方や働き方」についての悩みに関しては、無配偶の男性の正社員と非典型雇用の間で相談ネットワークや相談チャンネルの状況に大きな差はみられなくなっており、そのことが第一の点で述べた傾向を弱める結果になっている。

第三に、第二の点から、男性の非典型雇用であっても相談ネットワークに関しては問題がないとすることは適当とはいえない。年齢層を20～24歳および25～29歳に分けた検討からは、正社員と非典型雇用の間で差が小さくなったとしても一時的なもので、やがて両者の差は顕著になっていく可能性が高いと考えられるからである。

第四に、第一の点から、男性の正社員が悩みの相談相手に恵まれていると単純に言い切ることは適当とはいえない。男性の正社員では、相談相手のいない人の割合が2006年に比べて大きく増加しており、そうした人たちの今後は注視する必要がある。

ポイントとなる、「今の仕事や働き方」についての悩み、および「これからの生き方や働き方」についての悩みにおける、20代の無配偶男性の相談ネットワークにしぼって述べるならば、2006年の調査結果は、20代で正社員／非典型雇用であることが相談ネットワークのあり方に大きく影響していることを示していた。そこでみられた、正社員であることが相談ネットワークを多方向的なものにする可能性をより高める傾向は、2011年の結果においても決して否定されたわけではない。30代への調査結果が示唆するように、より長いスパンでみるならば、正社員であることの相談ネットワークへの影響力はやはり重大である。

しかし、2011年において、少なくとも20代にいるうちは、（男性の）正社員であるからといって非典型雇用よりも自動的に多方向的な相談ネットワークに恵まれるというわけではなくなっている。そしてまた、正社員でありさえすれば相談相手の存在が自動的に保障されるというわけではない。「相手がいない」という事態が起こるリスク自体は、少なくとも20代にいるうちは、正社員と非典型雇用の間で顕著な差がみられなくなりつつあるといえる。自らの働き方や生き方に何らかの閉塞感を感じたとき、それを相対化する契機に関して、非典型雇用と同等のリスクを負う形で、20代という期間を過ぎざるをえなくなりつつあるのが、2011年の男性正社員の状況だといえる。

2006年の報告論文において、筆者は以下のような文章を記している<sup>15</sup>。

以上の検討から浮かび上がるのは、非典型雇用や無業にとどまっていることは、ソーシャル・ネットワークが広がっていく契機をもたないまま時間を経っていくことになるという可能性である。親や兄弟姉妹、学生時代の友人などからそれほど広がらないままだとすれば、新たに生じてくるさまざまな悩みは、その中で果たして相対化されたり解消されたりするのだろうか。ごく限られた人たちの中でのみ過ごし続けることにより、どのような事態がもたらされうるのか、そして実際にもたらされているのかには注意する必要がある。

そしてさらに、家族や学生時代の友人といった相談相手は、時間の経過に伴いつながりが強まることは実際には多くないだろう。親は年を重ねていき、兄弟姉妹も家を離れていくかもしれない。学生時代の友人も、それぞれの人生を歩む中で離れていくことは大いにありうるだろう。その意味で、そうした人たちの存在が、相談ネットワークにおいて比重が小さくなっていくことは不可避だといえる。それにもかかわらず、職場をはじめとする新たな場でネットワークをつくることができないのだとすれば、悩みを相談するチャンネル数の減少、さらには「相手がない」という事態も起こっていくと思われる。

2011年の調査結果を分析した現時点からこの文章を振り返ると、以上のまとめは現在でもなお基本的に有効であるといえる。ただし、2006年の時点で予想していなかった展開として、二つの点に最後にふれておきたい。

一つは、上で第二の点として述べた無配偶の男性の状況が示しているのは、正社員と非典型雇用との関係が今では2006年時点よりも流動的になり、その性格の差が（少なくとも相談ネットワークに関しては）明確ではなくなってきたということである。それはすなわち、20代でキャリアが何らかの意味で確立されるとは限らなくなり、むしろ20代という期間が全体としてキャリア探索期ないしキャリア形成期になったということの意味していると考えられる。今回はこうした変化がうかがえたのは無配偶の男性だけであったが、これが女性にも広がっていくのか、また探索期となりつつある20代の経験がどのように30代に帰結していくのかなど、注視し考えを重ねるべき点が新たに生まれつつあると思われる。

もう一つ、上の引用で記した「相手がない」という事態の到来は、あっけなく実現しつつある。特に、男性の正社員で相談相手がない人が増加するという展開は、正社員でありさえすればすべてが解決するわけではないという当然の（でも2006年の時点で筆者が十分に気づいていたとはいえない）事実を教えている。「20代という期間が全体としてキャリア探

---

<sup>15</sup> 久木元（2006: 119-120）、および久木元（2007: 165-166）。

索期ないしキャリア形成期になった」ということは、一度正社員になったからといって何らかのゴールや社会的安定にたどりつくとは限らないということである。それはすなわち、そうした過程の中で、相談ネットワークも形成されたり衰退したりするということである。相談ネットワークや、それを含むソーシャル・ネットワーク一般に関して、その形成のみならず維持や変化なども視野に入れていくことも、今後求められていくのかもしれない。

以上のように、若者の包括的な移行支援は、当初「包括」という言葉を用いた時点の予想を超えて、さらなる視野の広がりを求められていると考えられる。若者のソーシャル・ネットワークについての考察もまた、同様の課題を負っているといえる。

## 文献

- 浅川和幸，2009，「若者の意識とソーシャルネットワーク——北海道の特徴」労働政策研究・研修機構編『地方の若者の就業行動と移行過程』労働政策研究・研修機構，103-126.
- 内田龍史・菅野正之，2010，「大阪市における若者の就業構造の変容と生活様式」『都市文化研究』21: 98-112.
- 菅野正之，2007，「ネットワークと余暇活動」大阪市市民局編『若年者の雇用実態に関する調査 報告書』大阪市，121-133.
- 久木元真吾，2006，「若者のソーシャル・ネットワークと就業・意識」労働政策研究・研修機構編『大都市の若者の就業行動と移行過程——包括的な移行支援に向けて』労働政策研究・研修機構，94-121.
- 久木元真吾，2007，「広がらない世界——若者の相談ネットワーク・就業・意識」堀有喜衣編『フリーターに滞留する若者たち』勁草書房，129-171.
- 堀有喜衣，2009，「長野・諏訪地域の若者のソーシャル・ネットワークと意識」労働政策研究・研修機構編『地方の若者の就業行動と移行過程』労働政策研究・研修機構，212-237.
- 堀有喜衣・小杉礼子・久木元真吾，2006，「問題設定と調査の概要」労働政策研究・研修機構編『大都市の若者の就業行動と移行過程——包括的な移行支援に向けて』労働政策研究・研修機構，1-13.